

STOP! 転倒災害

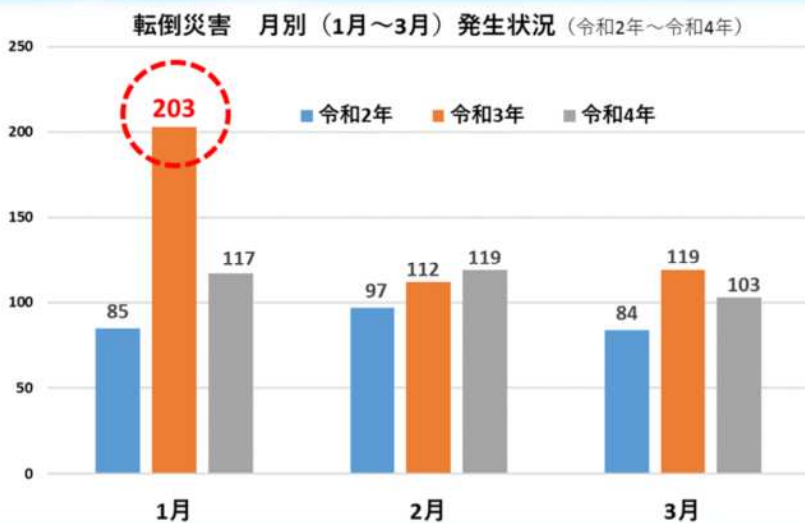
FUKUOKA 2022

冬季も転倒災害に注意しよう!



1 冬季の転倒災害発生状況（令和2年～令和4年 福岡県）

令和3年1月7日から9日にかけて、福岡県においても約2cmの積雪があり、最低気温も-2.2を記録しました。同年1月の転倒による死傷災害(休業4日以上)は203人で、そのうち同月7日から9日までの3日間において、積雪・凍結による転倒災害は81人(40%)発生しています。



令和3年1月の転倒災害（203人）のうち降雪日3日間の割合



資料：労働者死傷病報告（R2～R4）

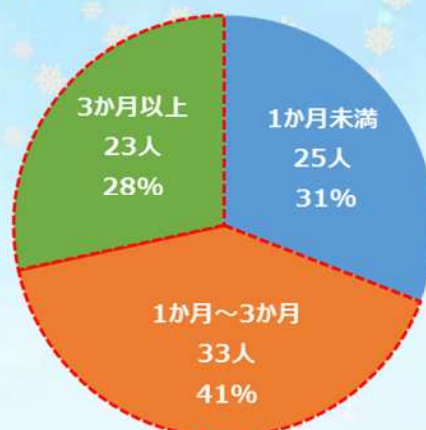
2 積雪・凍結時の転倒災害発生状況（令和3年1月7日～9日）

60歳以上の高年齢者の比率が半数を超え、被災者81人のうち64人が骨折しており、休業期間が長期化する傾向にあります。また、被災者が転倒した場所は、道路と屋外通路や建物出入口など事業場敷地内で約7割を占めており、注意が必要です。

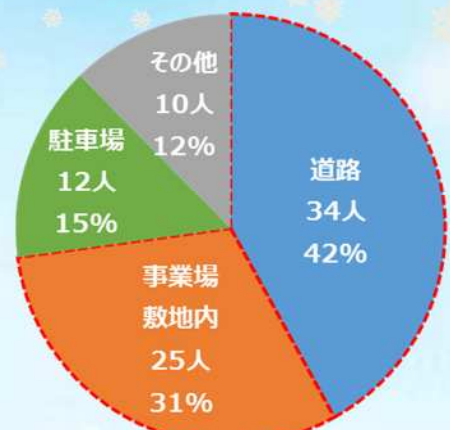
年齢別



休業日数別



災害場所別



資料：労働者死傷病報告（R3）



3 冬季における具体的な取り組み

(1) 気象情報を活用しましょう

- ・ 天気予報に気を配り、降雪、低温に関する気象情報を入手しましょう。
- ・ 警報・注意報が発令された時の対応マニュアルを作成し、関係者に周知しましょう。
- ・ 気象状況に応じて、出張や作業計画を見直しましょう。



(2) 通路、作業場所等の積雪・凍結に気を付けましょう

- ・ 屋外通路、建物出入口、駐車場等の除雪や融雪剤の散布を行い、安全な通路を確保しましょう。
- ・ ながらスマホやポケットに手を入れず、滑りにくい靴を履きましょう。
- ・ 時間に余裕をもって、歩行や作業を行いましょう。



4 STOP！転倒災害FUKUOKA2022の取り組み

(1) 毎月転倒の危険をチェックしましょう

- ・ 毎月1～7日に転倒予防のための点検を行いましょう。
- ・ ヒヤリハット事例についてはリスクアセスメントを実施し、これに基づく対策を講じましょう。
- ・ 点検は以下の項目を参照し、職場の作業環境に合ったチェックリストを作成し点検しましょう。

セーフティチェック項目		✓
1	通路、階段、出入口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、作業内容に適した耐滑性があり、かつ、サイズが合うものを選んでいますが	
6	ヒヤリハット情報を利用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

(2) 危険の見える化や転倒災害に関する教育を実施しましょう

- ・ 転倒災害が発生する危険がある箇所にはステッカーの貼り付けなどにより、危険を可視化（＝見える化）しましょう。
- ・ 転倒災害を防止するために、安全教育を実施しましょう。
- ・ 転倒防止対策については、厚生労働省HPの「職場のあんぜんサイト」をご覧ください。



5 高齢者の安全衛生対策

転倒災害は高齢者に多く発生していることから、これらの方々に対する対策も重要です。高齢者の安全衛生対策については、厚生労働省HPをご覧ください。

高齢者の安全衛生対策



職場のあんぜんサイト

